

# お元気ですか？

ogenkidesuka

公立富岡  
総合病院  
ニュース

第67号

嘘みたいな感染症治療法

看護部長就任の挨拶

シリーズ職場紹介…血液浄化室

地域医療連携だより

コスモス（英語、学名ともに Cosmos）原産地はメキシコの高原地帯。  
アキザクラ（秋桜）とも言う。日本には明治20年頃に渡来したと言われる。

発  
行

富岡地域医療事務組合

公立富岡総合病院

〒370-2393 群馬県富岡市富岡2073-1

☎ 0274-63-2111 📠 0274-64-1406

✉ tomihp@mail.gunma.med.or.jp

🌐 <http://www.tomioka-hosp.jp>

臨床試験で証明された

# 嘘みたいな感染症治療法

副院長 飯塚 邦彦

平成26年の8月は、西アフリカでのエボラ出血熱やら、代々木公園で蚊に刺されて70年ぶりに国内感染したデング熱やら、感染症の話題に事欠きません。

今回は感染症、特に抗菌剤（ペニシリンで代表される抗生物質は医学用語では抗菌剤と言います）で引き起こしてしまう腸炎（偽膜性腸炎）と、その治療についてのお話です。

## 一感染症とは

生物は他の生物と、相互関係をもちながら暮らしています。

同じ場所で、複数の生物が生活する現象を「共生」と呼びます。

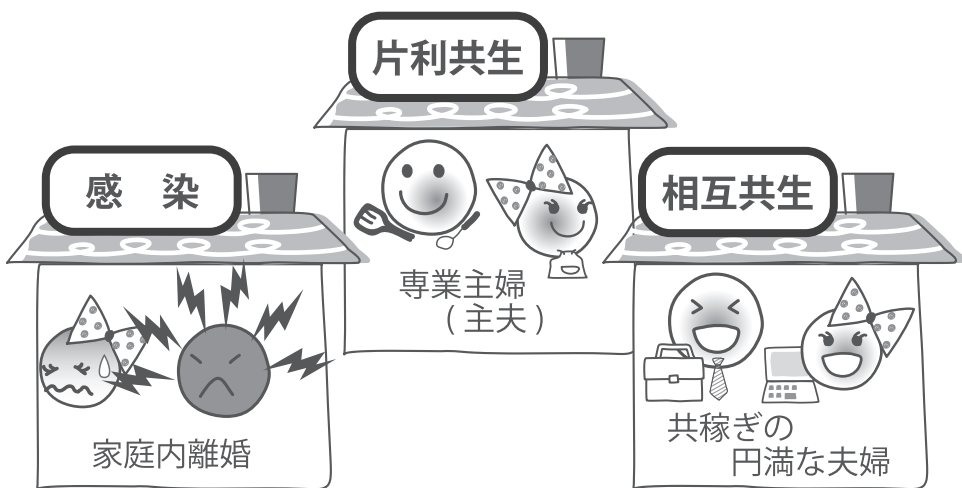
共生は互いに利益を与えあう「相互共生」、一方的に利益を与えるが害は与えない「片利共生」、そして一方的に利益を奪うのみならず、害まで与えてしまう「感染」があります。

感染によって宿主（利益を奪われる側）に病的状態が起こった時、この現象を感染症と言います。

共生、片利共生、感染はそれぞれひとつ屋根に暮らしていても、

「共稼ぎの円満な夫婦」、「専業主婦（または主夫）」、「家庭内離婚」と

いったところでしょくか？



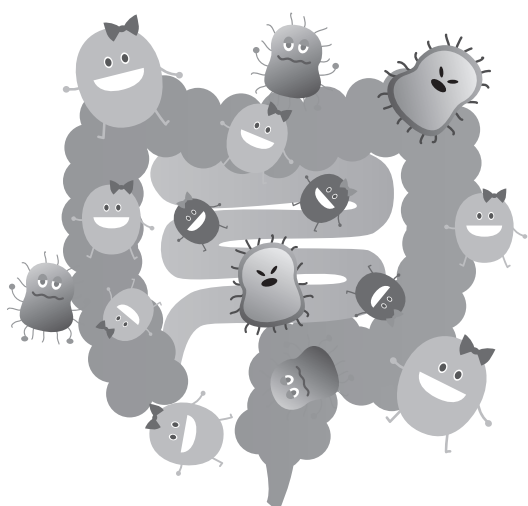
## 一身体の中の様々な微生物

進化医学（井村裕夫 羊土社

2013年）によれば、人体に共

生する様々な微生物はマイクロバイオーームと呼ばれ、そのうち細菌

に限っても、その数は人体の総細胞数（約60兆個）の9倍、種類は1000程で、重さはなんと1.5kgとされています。主に小腸や大腸など消化管にいるようですが、どんなに潔癖症のヒトでも皆、微生物と共生していることが分かります。



言い換えれば、様々な微生物とバランスをとって暮らしているのは正常で、このバランスを崩すと、様々な不都合が起こることが予想されます。





## 一細菌とウイルス

細菌は千分の1ミリのカプセルの中に核を持たず直接DNAを入れていきます。

細菌同志は決して食い合うことはありません。分裂して場所と栄養を獲得しようと増殖しますが、ライバルがたくさんいると、1種だけ増えることは難しくなます。新座者の強毒菌が来ても増えづらい環境になるわけです。



日常臨床でよく遭遇する「かぜ」の原因は細菌の更に千分の1の大きさのウイルスです。

細菌もウイルスも眼には見えませんが、その大きさは、細菌を1mmの球とすると、ウイルスは1mmのボールペンの先ぐらいの大きさで

全く違う生物です。

## 一クロストリジウム

抗菌剤は細菌に効果がありますがウイルスには無力です。

かぜに不要な抗菌剤を使用しても、大抵何も不都合ありません。しかし、耐性菌が生まれる可能性は高まります。

更に稀ですが、腸内細菌叢が攪乱され、使用した抗菌剤に抵抗性のクロストリジウムという細菌が異常に増殖する結果、その細菌から産生される毒素で「偽膜性腸炎」が起こります。



治療はクロストリジウムに効く、また別の抗菌剤を使うのですが、その成功率は60%程度で何度も再発する悩みがありました。

## 一驚くべき臨床試験

2013年その治療法として、

なんと正常な人の便を、チューブで十二指腸の先に入れると極めて良い成績であることをE.von Zoopらが臨床試験で証明しました。増えすぎた細菌を叩いた上に、本来いるはずの細菌をもう一度移植して、正常細菌叢を取り戻すことが大切だったのです。

日常臨床でまだ便を使用することはできませんが、正常腸内細菌叢バンクを作って、定められた基準で使用できるようになるでしょう。

勿論、他人の便の成分を嫌悪感なく移植する工夫は必須でしょう……

正常な便で治療する感染症のお話でした。



# 看護部長就任の挨拶

看護部長 吉田幸枝

「お元気ですか？」を読まれている皆さま、はじめまして。

私は今年の4月に教育の現場から医療の現場へと異動になり、看護部長という大役をお引き受けすることになりました。

前職は看護学校の教員であったことから富岡総合病院は実習病院として学生達と共に学ばせて頂いた身近な病院です。

さて、4月から立場が変わり、新たな目で医療の現場をみると、当病院は緊急・重症な状態にある患者が多く、実施されている手術や検査は高度で専門的であり、安全で質の高い医療が求められている事が改めて分かりました。また、これらの行為に関しての職員の努力は一見では見えにくく、立場を変えてみると見えてくるものが多々ありました。

かつて学んだ内容に管理者として必要な「使命、熱意、行動力」という3つの要素があります。「なぜそうしなければならないのかという使命感」、「絶対に成し遂げるという熱意」、「決めた事を実行する行動力」です。今、この意味を再認識しなくてはならない立場にあると自覚しています。

現代医療は益々高度に複雑になっていく事が予測されます。看護部長としては当病院の理念「患者中心の医療」に沿い、患者中心の看護とはどうあるべきなのかを考えつつ、患者・家族の喜ぶ笑顔や感謝の言葉が少しでも多く聞けるように、そしてその笑顔や言葉に看護職がもっと喜んでもらおうと動機づけられるようにしたいと考えております。

それには3つの要素を念頭に、この地域の方々が安心して安全に医療、看護が受けられるように、そして、患者・家族の喜ぶ顔がたくさん見られることを目標に努力していく所存です。

今後も皆さまの御指導・御協力を頂きながら、精一杯職務に専念していきたいと思っております。未熟な点多々あると思いますがどうぞ宜しくお願い申し上げます。



## 職場紹介

# 【血液浄化室】

看護サブマネジャー

丸山真実

皆さんこんにちは。

今回は、血液浄化室について紹介させていただきます。

血液浄化室は、南棟の1階に位置し、室内はワンフロアで開放的な空間です。

治療は、主に腎不全患者さんに血液透析を行うところです。

血液透析とは、体外で人工腎臓と呼ばれる透析器（ダイアライザー）に一定量の血液を送り、血液中にある老廃物を取り除き、水や電解質のバランスを整えて、きれいになった血液を体内に戻す治療です。その他の治療としては、白血球除去療法やLDレアフエーシスなどの血液浄化療法も行っています。

ベッド数は30床、透析の装置も30台あり、現在約65名の方が治療を受けています。通院透析を始め、

入院されている方、旅行透析や里帰りの方の透析も受け入れております。また緊急透析の対応もしております。

血液透析は、週3回で、1回の治療時間は3～5時間です。  
透析体制は、月水金は一部と二部、火木土は一部となっています。

治療時間	一部	入室時間：8時30分	穿刺時間：9時00分
	二部	入室時間：14時30分	穿刺時間：15時00分

治療には、泌尿器科医師、看護師、臨床工学技士が業務に携わっております。

スタッフは、熟練した技術と豊かな知識・経験を持ち、患者さんが

安心して治療を受けられるように安全で適切な透析医療を提供できるように心がけております。



透析を初めて受けられる方には、スタッフが透析導入前から皆様のベッドサイドに足を運び、不安の軽減に努めております。

また、透析を受けられるようになってからも、透析をより理解してもらうために患者さんの病室に伺い一緒に勉強しております。

10月には、透析装置の入れ替えがあり、透析の機械が新しくなります。

腎不全患者さんひとりひとりに対し、より良い透析ライフが送れるようにと、スタッフ一同取り組みしております。





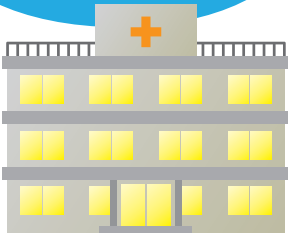
平成26年度  
地域がん診療拠点病院強化事業市民公開講座

テーマ：認知症を理解して地域で支えよう

講師	群馬県認知症疾患医療センター篠塚病院 センター長 田中 眞 先生
日程	平成26年11月21日(金)
時間	18:30(18:00受付)～20:00
会場	J A 甘楽富岡 ヴァンヴェール

地域にお住まいの方の、多数の参加を病院スタッフ一同お待ちしております。

当院は  
在宅療養後方支病院  
です



地域住民の医療を最先端で担っている診療所の医師と連携して、在宅療養している方を支えています。

かかりつけの診療所を通じて、事前に当院への入院希望を届け出ていることにより、スムーズに入院治療が行えます。

もちろん届け出なくても、いつでも最善の医療を提供させていただきます。

詳しくは  
かかりつけの  
医師にご相談して  
ください

ナイトスクールで院長と語りませんか!!

毎週第1・3水曜日 18時より外来1ブロックで開催中です。  
たくさんの参加をお待ちしています。



● テーマについては、ホームページまたは院内掲示版をご覧ください。 ●

公立富岡総合病院 患者支援係(がん相談支援センター)

TEL.0274-63-2111 FAX.0274-64-1406

E-mail [tomihp@mail.gunma.med.or.jp](mailto:tomihp@mail.gunma.med.or.jp)

Web site <http://www.tomioka-hosp.jp>